



文化財ニュース いわき

第 57 号

平成 10 年 2 月 14 日

財団法人いわき市教育文化事業団
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

上ノ原経塚

経塚（きょうづか きょうてん まいのう 経典を埋納したところ）は、まっぽうしそ 末法思想にもとづくみろくしんこう ごくらくおうじょう 弥勒信仰と極楽往生の願いを込めて、10世紀の終り頃から社寺の境内や山頂につくられるようになります。

日本で最も古い経塚は、ふじわらみちなが 藤原道長が998年（長徳4）のおくがき 奥書があるこんし きんでいきょう きょうづつ 紺紙金泥経を経筒に納めて、1007年（寛弘4）に埋納したきんふせん 金峯山経塚（奈良県）であり、福島県内で最も古い例は、せきせいがいよう き 石製外容器に1130年（大治5）せんこうじ 銘のある千光寺経塚（喜多方市）が知られています。

上ノ原経塚は、好間町の市街地を一望できるとともに見晴らしの良いところから発見されました。直径2mほどの穴の中央に、大小さまざまな石で小さな部屋がつけられ、その中にほけきょう しゃきょう 経典（法華経を写経したもの）を入れたどうせい つつ 銅製の筒が納められていました。経典にはしょしや 書写した数名の僧侶の名前が記されています。平安時代末頃（12世紀後半）と考えられます。



上ノ原経塚（小さな石室に納められた経筒）



銅製経筒

銅製経筒

銅製経筒（ちゅうそうひん 铸造品）は円筒形の筒身に
 小さな宝珠形ほうじゆけいのつまみをもつ印籠蓋（印
 籠のように蓋と身が平らに重なる蓋）が
 かぶさります。身と蓋には同じそうしよく装飾が施
 されており、この経筒とまったく同じも
 のは他に類例がありません。経筒は高さ
 27.5cm、直径11.9cmと比較的大きく、重
 さ3.36kgのとても重厚な感じがする一級
 品です。その特徴から平安時代末頃（12
 世紀後半）の年代が考えられます。

紙本経

経筒の中には経典8巻（紙本経）と白
 紙3巻が納められており、慎重に開いた
 結果、経典は妙法蓮華経みょうほうれんげきょうの第一巻～第八
 巻をしよしゃ書写したものでした。経典はタテ20
 cm、ヨコ40cmほどの和紙（料紙）を数枚
 つないで1巻ごとの巻物にしてあり、『金
 剛こんごう仏子慶豪』や『金剛しょうかく仏子證覚』などの
しやきょう写経した僧侶名やおくがき奥書が記されています。

としておきましよう。



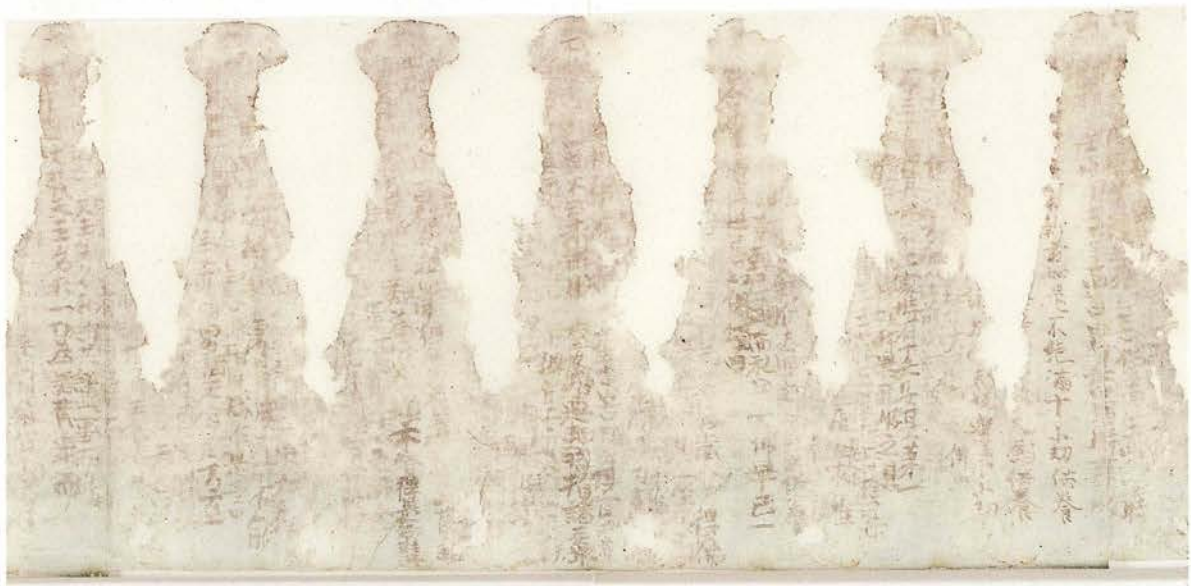
紙本経（妙法蓮華経巻第一 方便品第二の部分）

よみがえる古代の文字

みょうぼうれんげきょう ほけきょう きょうもん
 妙法蓮華經（法華經）の經文が一字一句ていねいに書き写されています。料紙には1行
 に17字～20字ずつ28行～37行書かれています。かいせん けいせん
 界線（罫線）は認められないので、定規あ
 るいはしたじ
 下敷きを使ってしよしゃ
 書写したものと思われます。1巻は、長いものでは料紙18枚をつな
 いでおり、長さにすると7mにもなります。また、数箇所
 に人名が記されており、その前
 後の書体は明らかに異なります。すべてを一人でしやきょう
 写経したものではなく、数名の人（僧
 りよ
 侶）がかかわっていることがわかります。おそらく長い年月がかかったことでしょう。



紙本 經（妙法蓮華經卷第二 譬喩品第三の部分 『金剛仏子慶豪』の人名あり）



紙本 經（妙法蓮華經卷第三 化城喩品第七の部分）

とじておきましょう。

あつた めじょうり いせき 荒田目条里遺跡

荒田目条里遺跡は、いわき市平菅波字礼堂
 地内に所在します。工場建設に伴い、平成5
 年に発掘調査が行われました。発掘された古
 代の河川から、多くの木簡や祭祀の遺物が発
 見されました。

財団法人いわき市教育文化事業団では、現
 在この遺跡の発掘調査報告書を作成中です。

荒田目条里遺跡は、木簡などの文字資料の
 豊富なことで知られています。

木簡については、釈読が進み、発掘調査報
 告書に先立って、「木簡が語る古代のいわき
 - 荒田目条里遺跡木簡調査略報」として、す
 でに一般に紹介されたところでした。

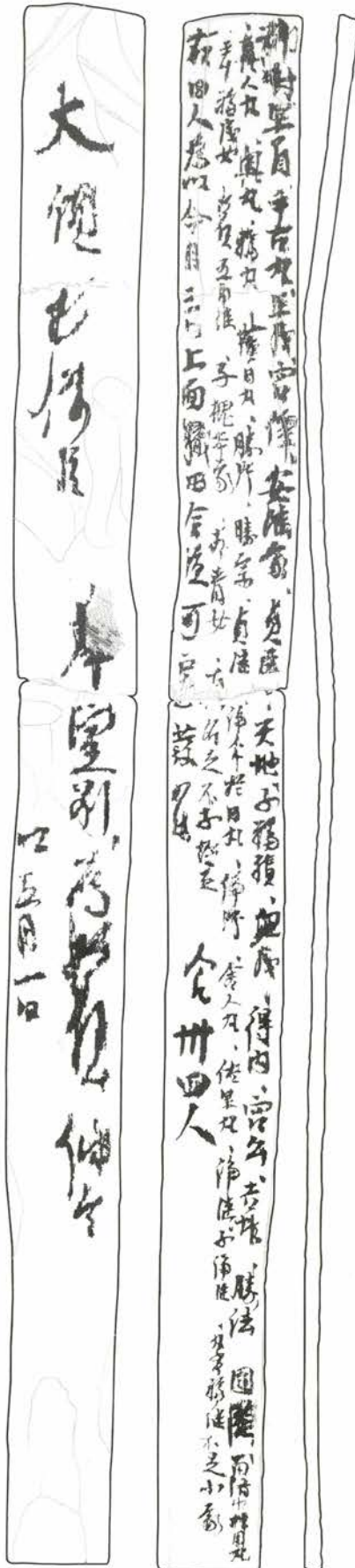
このほかの文字資料として、土器や木製の
 器に墨書きされた遺物が多量に発見されてい
 ます。当初180点とされていたその数も、
 資料の整理が進められている現在では250
 点もの数に上っております。

これら文字資料の釈読も含めて、今後の資
 料整理が楽しみです。

さて、左の図は、定規やコンピューターの
 画像処理を利用して図化した2号木簡です。

郡司(郡の長官)から里刀自(里長の奥さ
 ん)に宛てた命令書としておなじみです。

この木簡は、福島県立博物館の協力を得て
 劣化を防ぐ保存処理を行い、また、同じ模型
 を3点作成して、現在、国立歴史民俗博物館
 と福島県立博物館、そして、いわき市考古資
 料館にそれぞれ展示しております。



2号木簡実測図 [2/5]

とておきまじょう。